148 等閑残命延 ●○○●◎
149 形馳魂怳怳 ○○○●●
150 目想涕*漣漣 ●●●○◎
151 京國歸何日 ○●○○●
152 故園來幾年 ●○○●◎

※脚韻は下平声「先」韻、韻字は「湲、延、漣、年」である。

＊底本では「連々」となっているが、ここでは「漣々」を採る。

訓読

145 山には遥かにして縹緑なるを看る
146 水は遠くして潺湲（せんくわん）たるを憶ふ
147 俄頃羸身健やかに
148 等閑残命延ぶ
149 形馳せて魂怳々たり
150 目想ひて涕漣々たり
151 京国に帰らんこと何れの日ぞ
152 故園に来ること幾年ぞ

口語訳

145 （九月となり）目をやれば、（空気が澄み）遥か彼方の山々がはなだ色に輝き、（くっきりと）見えるよう